

仏教の東漸 — 大乘仏教 —

講師 佐藤直実
 宗教情報センター研究員
 四天王寺国際仏教大学非常勤講師

1 前回の復習

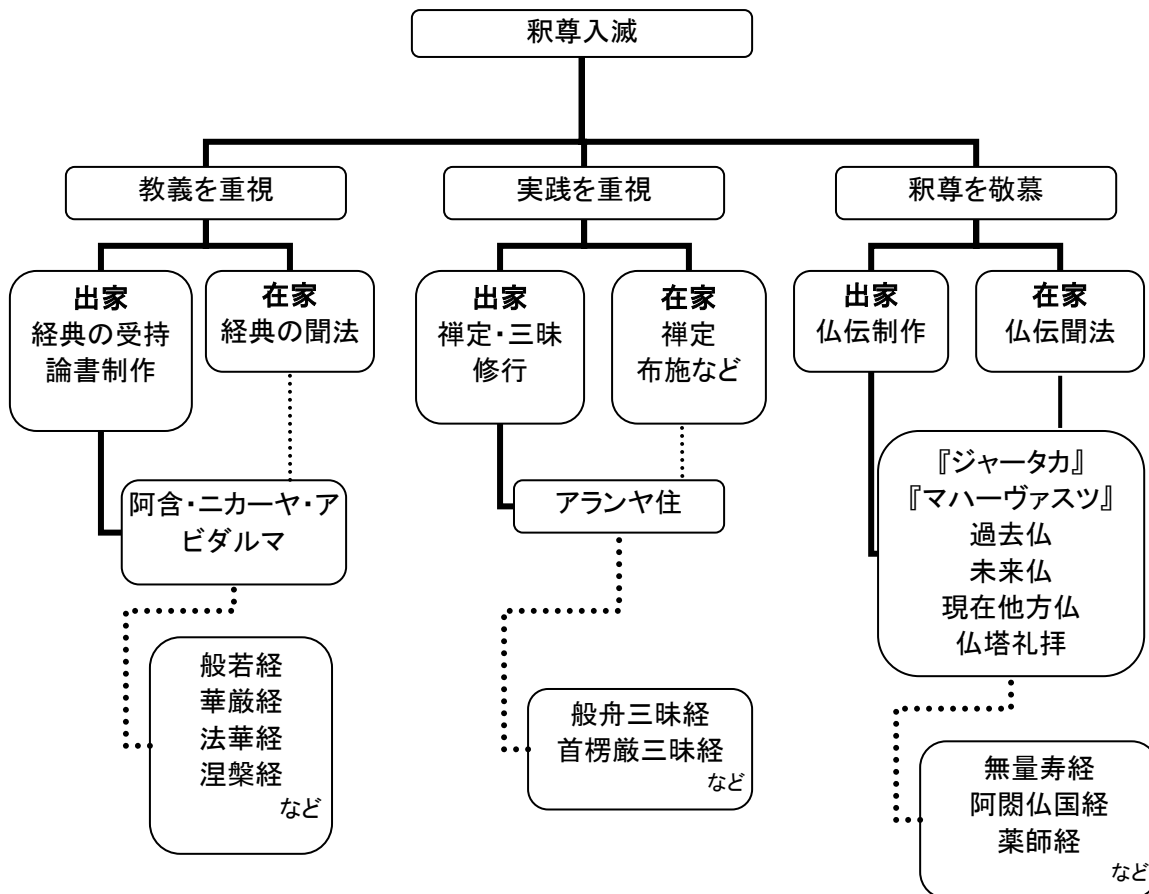
◎ 仏教の種類

初期仏教(小乗)→出家者は阿羅漢を目指す、在家者はよりよい来世を目指す
 大乘仏教→出家在家を問わず、自らを菩薩と称し、釈尊と同じ悟り(無上正等覚)を目指す
 密教→如来(仏)と入我我入することで無上正等覚の獲得を目指す

◎ インド仏教の歴史

初期 仏教	大乘 仏教	BC.6-4c	釈尊在世時から滅後 100 年まで 教団が1つの時代	※マウリア王朝による統一
		BC.3c	第二結集(根本分裂) 部派仏教の時代	※アショーカ王による仏教保護
	密教	BC.1c	南方に伝わった仏教 → パーリ語聖典《上座部》 北方に伝わった仏教 → サンスクリット聖典《説一切有部など》	
		AD.1c	自らを菩薩と称する弟子の登場、新しい経典、現在他方仏の誕生	※クシャーナ王朝
		AD.3.4c	全インドに仏教が普及、学問的に体系化される	※グプタ王朝
		AD.6c	陀羅尼や曼荼羅を使った儀礼	※ヴァルダナ王朝、パーラ王朝
		AD.13c	ヴィクラマシラー寺院の破壊によりインド仏教教団、滅亡	

2 釈尊入滅後の仏教教団



3 大乘仏教の特徴

- 【菩薩】 Bodhisattva ① 悟りを求める生類(衆生)
② 悟りを持つ生類(衆生)

初期仏教 → 修行時代の釈尊の呼称 ①②

大乘仏教 → 修行者一般の呼称 ① 未だ悟っていない修行者

② あえて修行者のままでいる者 例) 観音菩薩、地藏菩薩

※正覚を得るまでの段階

発心 → 菩薩 → 誓願 → 実践(六波羅蜜) → 授記 → 成仏

【現在他方仏】

初期仏教 → 過去・現在・未来にわたり、世界に仏は1人のみ。

例) 現在仏: 釈迦牟尼仏

過去仏: 迦葉仏、燃燈仏

未来仏: 弥勒仏(現在は弥勒菩薩)

大乘仏教 → あらゆる方角(十方)に無数の世界が存在し、それらの世界にそれぞれ仏がいる

例) 西方極樂世界: 阿弥陀仏

東方妙喜世界: 阿閼仏

東方淨瑠璃世界: 薬師瑠璃光仏

娑婆世界: 釈迦牟尼仏

※後に、永遠不滅の仏(毘盧遮那仏)の登場→密教の大日如来に発展

※三身説 色身…実体を持った仏

法身…真理(法)そのものである仏

報身…場合に応じて現れる仏

【様々な実践】

◎ 六波羅蜜

布施・持戒・忍辱・精進・禪定波羅蜜 → 智慧(般若)波羅蜜: 無上正等覚

※波羅蜜 = pAramitA : 完全であること、完全性

※三輪清淨 施主、施物、施与者の三者が清淨であること

◎ 仏塔礼拝

仏塔: 釈尊の遺骨(仏舎利)を納めた塔

※ Buddha-dhAtu 仏舎利→仏塔→仏性

◎ 経典崇拜

受持、理解、読誦、暗唱、書写、流布

◎ 念仏・念法

例) 南無・阿弥陀仏、南無・妙法蓮華経

参考文献

山田龍城 『大乘佛教成立論序説』 平楽寺書店, 1959.

静谷正雄, 勝呂信静 『大乘仏教 - 新しい民衆仏教の誕生 - (アジア仏教史インド篇 III)』 佼正出版, 1973.

奈良康明 『インド仏教史 I, II (世界宗教史叢書 7,8)』 山川出版社, 1979.

高崎直道 『仏教入門』 東京大学出版会, 1983.

菅沼晃編 『インド編 (講座仏教の受容と変容 1)』 佼成出版, 1991.

『大乘経典解説辞典』 北辰堂, 1997.

勝又俊教, 古田紹欽編 『大乘仏典入門』 大蔵出版, 1999.

佐々木閑 『インド仏教変移論』 大蔵出版, 2000.